

一般財団法人日本不動産研究所 ②② 地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

宇都宮市 大谷石文化が息づく

建材として使用された。

大谷地区とその周辺エリアは、近年、宇都宮の観光拠点として脚光を浴びている。石の里「大谷」には、大谷石地下採掘場跡地を見学できる大谷資料館や大谷公園の平和観音、大谷寺洞穴遺跡等が点在し、また、周辺エリアには道の駅つつのみや「るまんちっく村」や古賀志山を背景とする宇都宮市森林公園が存する等、豊富な地域資源に恵まれた地域振興にとって魅力あるエリアとなっている。

採石業の発展と並び、大谷



コンサートや美術展、映画撮影、地底湖クルージング等が地下空間で実施され、60万人を超える観光客を集めている

神秘的な地下採掘場跡地利用 60万人超の観光客集める

更に、今年5月には「大谷石文化が息づくまち宇都宮」が日本遺産に認定された。採掘場跡地に滞留する冷熱エネルギーの活用研究と当該エネルギーを活用した夏秋期に栽培する「大谷夏いちご」の産地化も始まった。大谷地区の新たな可能性も芽生えており、今まさに大谷地区とその周辺エリアへの来訪者の受け入れ整備が進められ、「大谷石文化」の魅力が国内外へ発信されつつある。大谷地区をはじめ宇都宮市の持続可能な観光振興や地域活性化の追い風になることが期待されている。(宇都宮支所、不動産鑑定士・永井正義)

大谷石は宇都宮市北西部の大谷町付近で採掘される石材である。柔らかく加工がしやすい、かつては石塀や石蔵の材料として、現在では住宅・店舗や公共施設等の内外装の建材として利用され、宇都宮市民の日常に深く溶け込み、大谷石のある街並みは市民にとっては当たり前な光景となっている。全国的にも大谷石は有名で、古くは旧帝国ホテルなど多くの歴史的建造物の

地区では昭和30年代頃から観光業も盛んになったが、昭和50年代に入り、安価な外国産の建材の台頭や、建築に関する法改正の影響等により、徐々に大谷石の需要は減少。昭

たが、その後は年々減少し、09年度には、採掘事業場は12カ所、年間出荷量も約2万トにまで減少した。89年の大谷石地下採掘場跡地の陥没の影響もあり、81年には年間120万人が訪れた大谷地区の観光客数は、06年には約12万人まで落ち込み、観光業も徐々に衰退した。

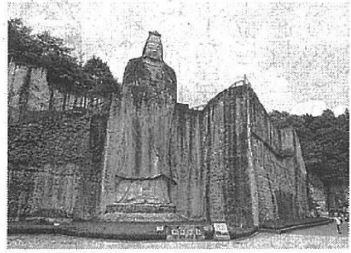
日本遺産に認定

近年、宇都宮市は、大谷地区の活性化策として、大谷石地下採掘場跡地をはじめとし

現在、宇都宮市は、大谷地区の開発許可基準の緩和により民間による宿泊施設や飲食店等の観光施設の立地誘導を進めており、景観形成重点地区の指定に向けた検討も進め

大谷地区の神秘的な魅力が注目され、地下空間を利用したコンサートや美術展等の各種イベントや映画等の撮影、地底湖クルージング等のアクティビティも実施されている。このような成果もあり、観光客数も16年には約20年ぶりに60万人を超えるまでに回復した。

大谷地区の神秘的な魅力が注目され、地下空間を利用したコンサートや美術展等の各種イベントや映画等の撮影、地底湖クルージング等のアクティビティも実施されている。このような成果もあり、観光客数も16年には約20年ぶりに60万人を超えるまでに回復した。



大谷景観公園では奇岩群④や平和観音⑤を見学することができる